

今回もアメリカ・ツアー本編の続きになる。デルタ航空のビジネスクラスを、貯めに貯めまくったマイルを使い利用した。自分の農場収入の70%が交付金で、同じような後ろめたい気持ちはあるが社会のシステムに従っただけで、私だけが特別な配慮をもらった訳ではないので、遠慮することはないのだ。

デルタには匂いがある

匂いというと語弊があるので香りに訂正しよう。どちらにしても嫌な匂いではない。最近は重量制限が厳しくなったのか、横幅にチャレンジするCAのパフュームでもない。国内の航空会社では感じる事ができない香りだ。清掃やシートの素材からなのだろうか？ とてもさわやかな香りだ。特に飛行機に乗り込む時よりも降りる時によく感じる。もしかしたらそのような香り空間を演出しているのだろうか。

羽田から快適な11時間を過ごす冬でもブルースカイのLAがそこにある。入国に必要なESTAに記載されている名前とパスポートの名前が一字違っていても、審査官から「どのくらいの滞在？」と聞かれたら「3週間」と答えれば厳密な入国審査は終了する。

以前はよく「前回はいつ出国し

た？」と、よくわからない質問を受けた。出国したから今、入国するんだろ？と考えるのが普通だが、事情通によると日本と違い、アメリカは出国審査を航空会社が行なうので、航空会社で集められた出国書類がなんらかの理由で関係機関まで届かないのが原因らしい。

レンタカーはハーツかアラモになる。ハーツの利用料金は少し高めだが、走行距離の少ないフォード系の車が多かった。アラモは多種多様な車が混在しているが、車種

の選択も可能だ。トヨタ、日産、マツダ、GMなどから選ぶことができる。間違ってもペニンシュラ(半島)系のタイヤとステアリングらしきものが付いた金属の枠にはお金を支払って乗る気がしない。一度ノースダコタ・ファアゴでそれしかないと言うので、SUVをイヤイヤ借りた。走行距離は2000マイルと少なかつたがリアゲートがロックできず、ガチャガチャやっているとセキュリティのアラームが止まらないう、キーを入れ直してなんとか収

アメリカに行ってきた 6

Vol.126



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

まった。外見はベベロンチーノ系(イタリア)がデザインしているのでオシャレだが、所詮コピーの寄せ集めでしかない。

昔だとレンタカーの保険は選んでサインしていたが、最近では事前にネットでオールカバタイプ保険に入る。燃料も満タン返しは面倒なので空タンクにして返してもいいようにする。大切なことがある。他の運転手がいる場合は、必

オレにも 言わせる!

北海道長沼発
ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

ず書類に記入することを忘れてはいけない。ただ家族や会社の同僚の場合、記載の必要はないというのがほとんどだ。

もちろんL Aでは左ハンドルだが、普段も左ハンドルのシエバーやフォークリフトを乗っているので、違和感はない。日本であってもフォークリフトはすべて左ハンドルなのだ。

カーナビは最近では標準装備が多いので助かる。言語は20カ国語くらいから選べるが、日本語にして距離表示をkmにするとしっくりこない。なぜなら中西部の道路は1マイルの碁盤の目になっているのでマイル表示の方が便利だ。アメリカに入れば金髪・ブルーアイに従えということなのだ。

日本の近未来に 起きることを想像する

例えば日本の国道1号線を東京から西に向かうとしよう。初めて通る道だ。目的地は静岡県の焼津。ところが標識案内には静岡市まで○kmとあるが、自分が行きたいのは焼津だ。焼津が静岡市の手前なのかその先なのかわからない。しばらく走って静岡市に近づいて初めてわかる。これは全国どこでもある標識案内だ。大きな都市であればすぐわかる

が、初めていく小さな町だと日本式の表示は親切とはいえない。

アメリカの様にあなたが走っているのは何号線のイーストなのかウエストなのか、焼津がどの道路と交差するのかが大切になる。L Aだと縦の南北に1st, 2nd ストリートがあり、横の東西にアルファベット通りがある。例えば北からCentury Blvdに行く場合、Dawsonだと通り過ぎていて、Bensonだともう少し先とわかる。

北海道ではどうなるか。私の農場の住所は長沼町西1南7になるが、西1の通りに住んでいる訳ではなく、南7に住んでいる訳でもない。住んでいるのは碁盤の道路の西側で、南6と南7の間になる。北海道は碁盤の目になっている場所が多いが、初めて農場にカーナビを使って到着できる人はいない。必ず住所の西1から電話をしてくる。

やはりアメリカの様に碁盤の西の表示の方が理解しやすいのだろう。長沼はアメリカ人が明治にやって来て測量をして、碁盤の目に道路を作ったが、道路の名前を付ける前に帰ってしまったのかも知れない。あと、最近やたら気になるのがサイズの違い。標識の英語と日本語の大きさを同じにすることも重要だ。

さてトランプ大統領の信任ともい

えるアメリカの共和党と民主党の議席を決める中間選挙に結果が出るころだろう。予想は日本のメディアが嫌う共和党の勝ちで決まり。

メキシカン不法移民は なぜ強制送還されない?

2年前にも書いたがマイノリティの共和党トランプ支持がすごいのだ。日本メディアはトランプがマイノリティや移民をいじめているように伝えるが、私が見聞きする限り、その反対である。夜のL Aは非白人ばかりで、その中のメキシカン不法移民はなぜ強制送還されないのか?

現地では「彼らは税金を払っている、不法滞在でも払うものを払っているのだから大切な納税者だ」と言う声が多い。L Aとしても不法移民を完璧に取り締まると、自分の実入りをなくすようなものだ。

ただアメリカで働くにはSS (ソーシャル・セキュリティ) カードが必要になる。さすがに正規の手続きで不法移民にSSカードをハイドロー、とはいかない。私も経験したが運転免許証や電気、水道、銀行口座開設にも必要になってくる。さらに今では雇用主も不法移民を雇ったら処罰が発生する。ではなぜ不法移民が何百万人も生活できるのか? やはり裏ワザがあった。あるレスト

ラン経営者は毎年従業員の税金、雇用の書類を関係機関に提出することになる。その際に不法移民はSSカードを経営者に提出するが、それがすべて本物ではないのだ。そのSSカードの所有者が140歳だったり、帰国者から譲り受けた物だったりする。雇用者も知って知らぬフリをする。ほぼ1年後に関係機関から「番号間違っていますか?」とんでも「あ、そうですか、確認します」もしくは「番号違っていました」の繰り返しをやる。ただ、その時点でもしつかり納税者としての義務は果たしているので将来、グリーンカード申請に優位に働く。

最近では普通にSSカードが売買されているようだ。「どこで売っているんですか?」との質問に、ある経営者は「ツーブロック離れたグラウンドパークで日曜日に100ドルで売ってるよ」と平然と答えてくれる。おかしな話だ。私やL Aの一般市民だったらみんな知っているのに、日本のメディアはこんなことも知らないのだろうか? おそらく知っているだろう。知っていてトランプの移民政策は間違っていると騒ぎたてる。そんなにアメリカに喧嘩を売ってどうしたいのか、先駆者として取り組む姿をしつかり見定めることが日本のあるべき未来である。